

事例番号:320159

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 36 週 B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 陰性

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 1 日

0:30 陣痛開始のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 40 週 1 日

7:14 微弱陣痛のため子宮底圧迫法にて児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 1 日

(2) 出生時体重:2700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.16、BE -10.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 16 日 嘔吐、多呼吸、眼球上転、活気不良、発熱あり

鼻腔、糞便、髄液、血液の細菌培養検査で GBS 検出

髄液検査で髄膜炎の診断

(7) 頭部画像所見:

生後 17 日 頭部 MRI で広範な信号異常を認める

生後 62 日 頭部 MRI で前頭葉優位に多嚢胞性脳軟化症

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 3 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS 感染症により、細菌性髄膜炎を発症したことであると考える。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 妊娠 40 週 1 日陣痛発来のため入院とした際の対応 (内診、分娩監視装置装着、バイタル測定) は一般的である。

(2) 分娩までの管理 (分娩監視装置装着等) は一般的である。

(3) 微弱陣痛のため子宮底圧迫法を行って児を娩出したことは選択肢のひとつである。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

(1) 出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

(2) 生後 16 日に症状が出現し受診した際の対応 (血液検査、培養検査、髄液検査、当該分娩機関に入院としたこと等) は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

遅発型 GBS 感染症に対する疫学的調査、予防・診断・治療に対する知見の集積が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。